

福岡県篠栗町

ささぐり

議会だより
No. 214



ささリンピック
キッズサッカー



令和4年12月議会号

地域の輪となるスポーツクラブ

意見交換会 篠栗町スポーツ協会…………… 2

12月定例会…………… 4

ここをどうする!?(9人が一般質問)…………… 8

特集 意見交換会

地域の輪となる スポーツクラブ

第26回

篠栗町スポーツ協会

3年前より「体育協会」から「スポーツ協会」と名称を改め、篠栗町スポーツの普及振興、指導、育成技術の強化とあわせて、スポーツマナーの向上を図り、また、健全なスポーツ精神を通じて、協調・融和と知性豊かな人間形成を目指し、地域社会の明るい環境づくりに貢献することを目的としています。

協会の成り立ちとは？

●協会の創立は昭和で、もう三つの時代を生きています。
昭和55年の10月に11競技団体で創立し、活動を始めました。それから40周年を迎え、今、42年目になります。

会員数は？

●今年度は、1116名で、活動しています。
ピークだったのが2004年の1869名でしたので、ここ約18年で、750名ぐらい減っています。

今年度は、「ささりんピック」が再開されましたが？

●3年ぶりにやっと開催できるところになりました。
ささりんピックの始まりは、所属している競技団体の大人の部とジュニアの部の会員をカブトの森公園に集めて、リレーや障害物レース、借り物レースなど競技団体對抗運動会のような形で行っていました。
今年度は、年齢も幅広く参加できるように、まず、幼稚園対抗で、絆づくりや協調性を養ってもらえればと、「キッズサッカー」をやりました。それから、町内の小学生を対象に「子どもサスケ」、鉄棒に

ぶら下がって雲梯で進んだり、平均台、綱くぐり、最後に高さが3メートルぐらいの壁上りを行い、学年ごと、男女別にタイムを競いました。多目的グラウンドでは、「グランドゴルフ」、ここでは、90歳近い方も参加されていました。

競技者を含め来訪者は千人を超えたのではないかと思います。
町内で、年代を問わず、これだけの人数を集めてやる大きな競技としては、一番ではないかと自負しております。今年度で、19回目となりますが、競技内容については、その都度、いろいろ考えながら、広く町民の皆さんに楽しんでいただけるものになりたいと思っています。

活動や運営に当たり、今後の課題や考えは？

●特に問題なのが、ジュニアの減少です。生徒数なり、子どもの出生率なり、絶対数が落ちてきているというのが、一番の原因だとは思いますが、今の子どもたちは塾や習い事にいろいろ忙しいので、そういうところもあるのかなと思います。厳しい状況なので、これを何とかしたいという思いがあります。
●ジュニアでスポーツを始めて、中学、高校、大学で活動して、その後、競技スポーツとして続ける人、サークルで続ける人、社会体育で続ける人、そこでやめてしま



篠栗町スポーツ協会の役員の方々

う人、この四つの形になると思うんですよね。

その中で、いかに将来的にスポーツを続けていってもらえる環境を作れるか、どの年代をどう取り込んでいくかということで、生涯、スポーツを続けていくきっかけになるのかなと思っています。

● 教師の働き方改革の一環で、中学の部活動指導を段階的に地域の指導者に移行するという方針があがってきたことです。

指導者のなり手、指導方法の調整、金銭面など非常に時間のかかる問題だと思います。

国の方針がどうなるのか、困惑している状況です。

議会だよりの感想は？

● 一町民としては、自分の興味のあるところは読んでいますね。公共事業の仕事をやっているの、道路とか橋とか上下水道とか、そういうことに対してのいろいろな議員さんの意見とか、陳情とか、そういうものは、興味を持って読んでいます。

もちろん、予算であるとか、い

ろんな公共事業等の質問等も、それぞれ議員の方が質問されたり、町長がお答えになったり、興味のあるところは目がいきます。

スポーツがもたらす効果は、社会や教育そして心理的にも地域住民や自治体に大きな効果を与えてくれます。コロナ禍での制限がありますが、今後もスポーツで町を活性化していただきたいと思っています。

ありがとうございます。

12月定例会

12月5日から13日まで9日間の会期で開催しました。

総務建設・文教厚生両常任委員会、予算特別委員会において、町長提案の条例案や補正予算10議案を審査しました。最終日の本会議にて、すべての議案について、原案のとおり可決しました。

各議案に対する賛否一覧を7ページに掲載しています。

条例

部活動の地域移行 準備委員会設置

篠栗町地域部活動準備委員会設置条例の制定について
(議案第54号)

本議案は、スポーツ庁・文化庁による部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、篠栗町立中学校における地域部活動移行を推進するための準備委員会を設置するにあたり、本条例を制定するもの。

公布の日から施行。

主な内容は、社会教育委員、スポーツ推進委員、スポーツ協会役員、文化協会役員、小中学校児童生徒の保護者、小中学校教職員等と協議を重ね、

関係者のニーズや課題の把握、情報発信を行い部活動の地域移行を段階的に進めるため。

【部活動の課題】

- 少子化の進展により、従前と同様の学校単位の体制運営は困難。
- 学校の働き方改革が進む中、教師が顧問を務める指導体制の継続は、より困難。



部活3年で移行 見直し

スポーツ庁と文化庁は12月27日、2023年度から3年間で休日の活動を地域に移行するの方向針を変え、期限にこだわらず移行を進めるというガイドラインを発表。

受け皿となる団体や人材不足などで期間中の達成が困難な自治体もあるため、当面は学校主体の部活も併存させるとした。

施設の住所の表示を変更

住居表示の実施に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
(議案第55号)

住居表示の実施に伴い、関係条例について所要の規定を整備するため、本条例を制定するもの。制定の内容は、実施区域で変更となる町名等について、改正を行うもの。

令和5年2月4日から施行。

名称	新表示
北勢門小学校	津波黒四丁目4番1号
篠栗北中学校	津波黒三丁目18番1号
北勢門幼稚園	津波黒四丁目3番18号
社会体育館	津波黒三丁目18番2号
津波黒集会所	津波黒一丁目12番1号
すぎのこ児童館	津波黒四丁目6番20号

条例から篠栗幼稚園、北勢門幼稚園の名称を削除

篠栗町立幼稚園条例の一部を改正する条例の制定について
(議案第57号)

幼稚園の入園者数の減少と保育園の待機児童の増加の現状を踏まえ、令和2年度に篠栗幼稚園の民営・認定こども園化と、北勢門幼稚園を閉園し、町立幼稚園を勢門幼稚園に集約することが決定していたが、本議案では、この施策が完了することに伴う最終事務として、篠栗幼稚園、北勢門幼稚園の名称を条例から削除するもの。

令和5年4月1日から施行。



これまでの委員会質疑

- 問** 北勢門幼稚園の閉園後、施設はどうなるのか。
答 コミュニティセンター、放課後子ども教室等に活用できる。
- 問** 通園バスはあるのか。
答 事前に閉園の話をしており、今のところ保護者による通園を予定している。
- 問** 通園バスの検討はできないか。
答 利用者から要望が多くなれば、その時期に検討したい。

反対討論

荒牧 泰範 議員

わが町は、3小学校3幼稚園3児童館という最上級の環境であったが、社会情勢も変わり、共働きの増え幼稚園の利用率が下がるのもいたしかたないが、幼稚園は営利目的でなく、例えば園児が一人になってもやるべきである。篠栗幼稚園等の対象園児をどうやって尾仲まで連れていくのか巡回バスはセットでなされるべきである。加えて、残る1園の名称がなぜ勢門幼稚園なのか。篠栗町立篠栗幼稚園であるべき。以上の観点から強く反対する。



勢門幼稚園



北勢門幼稚園



篠栗幼稚園

補正予算

各会計補正予算 (議案第59号～61号)

会計別の補正予算額は下記のとおり。

(万円未満四捨入)

会 計	補 正 額	補正後予算額
一般会計	1億2546万円	124億 336万円
国民健康保険特別会計	1467万円	27億9238万円
下水道事業会計	21万円	8億4660万円
収益的支出		

一般会計の主な補正については別表1～2のとおり。

(表1)歳入の主なもの

地方交付税	6318万円
国庫支出金	3827万円

(表2)歳出の主なもの

民生費	障がい者福祉費 (自立サービス給付)	8000万円
教育費	各小学校 (教室分割工事) (電子黒板購入費)	3383万円 581万円

臨時会

臨時会が開催されました。
 第3回臨時会(10月12日)では、左記の協定の締結1件と補正予算1件の2議案、第4回臨時会(11月30日)では、人事院の給与改定に関する勧告による条例の改正案1件と、それに伴う補正予算案5件を審査し、全ての議案を可決しました。各議案に対する賛否一覧をページに掲載しています。

北地区産業団地

イベント広場を整備

協定の締結について

(議案第44号)

篠東北地区産業団地内の国有地、町有地、合計6387㎡をイベント広場として整備するにあたり、隣接する(株)やまやコミュニケーションズの駐車場と一括施工(工事費1億8227万円)するため、応分(面積分)の負担をするもの。

件名 篠東北地区産業団地イベント広場整備工事施行に関する協定

協定の方法 随意契約

負担金額 9287万6300円

(うち消費税額844万3300円)

協定の相手方

福岡市東区松島五丁目27番5号

(株)やまやコミュニケーションズ

委員会

議会運営委員会視察研修

令和4年10月17日～19日
 鷹栖町議会 北海道上川郡鷹栖町

議会に関心を持ってもらうため、さまざまな取り組みに挑んでいる鷹栖町議会を視察した。議会だより作成に関しても大いに参考になった。



鷹栖町議会 議会活動の活発化について研修中

新さっぽろエネルギーセンター 北海道札幌市厚別区

天然ガスを利用した発電、排熱でエネルギーをムダにしない先進的なマネジメントシステムで省エネに貢献し、かつ災害に強い街をテーマにしたプロジェクトを視察した。

福岡県町村議会広報研修会

令和4年11月21日 博多サンヒルズホテル

吉村潔氏(エディター、広報アナリスト)から、より多くの住民が議会活動を理解し参加するための「住民の理解と共感をめざして これからの議会広報を考える」と題した研修があった。午後からは議会だよりに対してクリニックが行なわれ、具体的なアドバイスを受けた。



広報研修会のようす

議決結果一覧表

	議案番号	議案名	議決結果
10月臨時会	44	協定の締結について	賛成多数可決 (可9：否2 横山・藤木)
	45	令和4年度篠栗町一般会計補正予算(第4号)について	全員賛成可決
11月臨時会	46	篠栗町一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	全員賛成可決
	47	令和4年度篠栗町一般会計補正予算(第5号)について	全員賛成可決
	48	令和4年度篠栗町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決
	49	令和4年度篠栗町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決
	50	令和4年度篠栗町水道事業会計補正予算(第2号)について	全員賛成可決
	51	令和4年度篠栗町流域関連公共下水道事業会計補正予算(第2号)について	全員賛成可決
12月定例会	52	地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	全員賛成可決
	53	篠栗町職員の降給に関する条例の制定について	全員賛成可決
	54	篠栗町地域部活動準備委員会設置条例の制定について	全員賛成可決
	55	住居表示の実施に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	全員賛成可決
	56	篠栗町議会議員及び篠栗町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成可決
	57	篠栗町立幼稚園条例の一部を改正する条例の制定について	賛成多数可決 (可10：否1 荒牧)
	58	篠栗町放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成可決
	59	令和4年度篠栗町一般会計補正予算(第6号)について	全員賛成可決
	60	令和4年度篠栗町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)について	全員賛成可決
	61	令和4年度篠栗町流域関連公共下水道事業会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決

11月議会に 何を質問する?

9人が一般質問

- | | |
|---------------------------|----|
| 1. 古屋 宏治 議員 | 9 |
| ・都市計画マスタープラン見直しは | |
| 2. 藤木 高裕 議員 | 10 |
| ・習い事応援、2000万円をどう感じるか | |
| 3. 岩下 勝正 議員 | 11 |
| ・篠栗町の移住、定住促進は | |
| 4. 品川 静 議員 | 12 |
| ・ファミサポ会員の負担軽減のため、報告書の簡略化は | |
| ・森林の新たな価値を見だし、企業のプログラム開発を | |
| 5. 田辺 弘之 議員 | 13 |
| ・スマホ講習でデジタル格差解消を | |
| 6. 横山 和輝 議員 | 14 |
| ・やまや建設用地に町有地が含まれるが | |
| 7. 村瀬 敬太郎 議員 | 15 |
| ・夜の公園、住民の安全・安心を | |
| 8. 栗須 信治 議員 | 16 |
| ・持続可能な部活動改革を | |
| 9. 荒牧 泰範 議員 | 17 |
| ・現在までの経過説明を求める | |

一般質問とは、議員が執行部に、その町の行政全般の事務執行状況や政策方針などについて、報告や説明を求め、所信や疑問を尋ねることです。

年4回開催される定例会中で行うもので、臨時会では行いません。

ここに掲載したのは要約で、質問者本人の原稿をもとに作成しています。議事録の全文は議会事務局・町立図書館・クリエイト篠栗・オアシス篠栗・各公民分館および町ホームページで閲覧できます。

都市計画マスタープラン 見直しは

町長「第7次総合計画との整合性を
しっかり取っていく」



古屋 宏治

問……………

今年は、現行マスタープランの見直しの中間年次となる。また、第6次総合計画の最終年度でもあり、これからの町の最も重要な検証の時期である。

今後、扶助費など経費は避けられず、いろいろな面での歳出増加により財源は厳しいものと予想される。

北地区産業団地開発での税収増加や雇用機会の増大、働き手世代の人口流入は見込めるが、活力と潤いのある町を作っていくためには成長の勢いを加速させ、更なる財源や雇用の場の確保が必要である。

篠栗の未来に新しい種をま

き、10年20年後の子どもたちが更なる夢を描ける町となっていくことを希求し、見直しの進捗と今後のまちづくりの方針、将来像を問う。

答【都市整備課長】

都市計画マスタープランは最上位計画である篠栗町総合計画に即し、関連する農業や環境福祉等の計画と連携して定める必要がある。特に、総合計画については第7次篠栗町総合計画を令和4年度中に策定予定であり、その内容を踏まえた上でマスタープランを定めていきたい。

調整区域の見直し、用途区域の見直しについては、マスタープランに基づき、計画実施される開発等の実績や周辺域における市街地形成などの状況を踏まえ、県の定期線引きの見直しの際に実施したい。

問……………

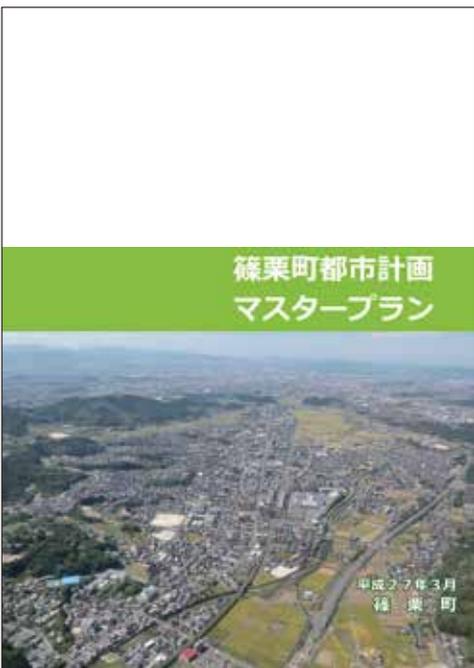
マスタープランの中の色分けゾーンがどのように変わっていくのか。

答【町長】

まずは、第7次総合計画を令和5年度からスタートさせ、総合計画と整合性をしっかりと取り、都市計画マスタープランの見直しをしていく。

あわせて、農業人口の減少あるいは将来の担い手不足、それに対応するような形での町のポ

テンシャルの増大、農業から離れたいろんな土地利用を目指したいとの民間からの要望も含め、今あるゾーンの具体的な見直しだけでなく農業振興地域も含めたところで、今後のマスタープランの後半10年にこういうふうに変わるぞという、意図をしっかりと盛り込んだ新しい町の姿を作り上げていきたい。



篠栗町都市計画マスタープラン



マスタープラン
(篠栗町ホームページ)

習い事応援、2000万円を どう感じるか

学校教育課長

「決して高いとは思っていない」



藤木 高裕

「福岡市子ども習い事応援 事業内容」

交付助成対象者は、福岡市在住で生活保護世帯または児童扶養手当受給世帯のうち、小学5年生～中学3年生までの子どもの保護者。交付助成額は、子ども1人当たり月額1万円分のクーポンを毎月終日に交付。有効期間を1か月。利用期間は、令和4年7月～令和5年3月の計9か月間の各月。

問

福岡市が新たにはじめた、子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されずに、個性や能力を伸ばし自己肯定感を育めるようにと始まった「福岡市子ども習い事応援事業」。

篠栗町でも「町民の命を守る条例」を施行し、取り組みを始めています。子どもの命を守りそして子どもの能力育む、非常に良い事業だと思い、この取り組みを篠栗でも行ってみてはどうかと考え、福岡市の条件をもとに質問する。

篠栗町の小学5年生から中学3年生の人数は何名か。

答【学校教育課長】

令和4年10月1日現在の児童生徒数の合計は1667人である。

問

このうち生活保護世帯または児童扶養手当受給世帯はどの程度か。

答【学校教育課長】

概算ではあるが、約230人である。

問

福岡市の条件と同じ「子ども一人あたり月額1万円分」を交付した場合、およそどれくらいかかるか。

答【学校教育課長】

230人に1万円分のクーポンを9か月交付したとすると、2070万円の費用が必要となり、この事業を委託する場合は、別途委託料が発生する。

問

習い事や学習支援事業を行っている他の自治体はあるのか。

答【学校教育課長】

近隣の市町では、福岡市以外には事例はない。

問

この2000万円は決して高くないと思うが、学校教育課としては、金額はどのくらいか。

答【学校教育課長】

学校教育の外側にある塾や、その他習い事に補助するのは大変良いことだが、まずは自分たちのエリアの教育課程を充実させていきたい。

ただこの事業に対して、素晴らしいと感じているし、決して高いとは思っていない。

要望

例えば中学生に限定するなどして、是非とも前向きに検討していただきたい。



岩下 勝正

篠栗町の移住、定住促進は

まちづくり課長
「仕組みをつくり、今後検討していく」

問……………

地方特有の人口減少、過疎化といった地方課題について、国をはじめ地方公共団体の取り組みとして移住の促進に力を注ぎ、さまざまな情報発信を行っている。

県では「ふくおかよかとこ移住相談センター」や各ポータルサイトで発信され、センターを通じ篠栗町に移住された6世帯10名の実績もある。

わが篠栗町のスローガンでもある「いつまでも住みたい いつでも訪ねたいまち」を将来にわたって実現していくためにも更なる推進が必要である。取り組みの施策の一環とし

て、テレワーク施設を整備している郡内4施設や移住支援金を支給している町村もある。また、東北地方では空き家をあつせんし移住促進している町村や、古民家をリノベーションし店舗などに有効利用する手法の地域もある。

まち・ひと・しごと創生総合戦略の項目として推進強化していくため、以下、2点を質問する。

①空き家対策条例を協議しているが、微増している空き家の有効利用として、空き家バンク等のあつせん促進を推進する等の実例もあるが、見解を尋ねる。

②篠栗町の魅力発信を最大限發揮しうる情報ツールやイベントフェスタの次年度計画はどのようなか。

答【町長】

「いつでも住みたい いつでも訪ねたいまち」を実現するために各課が知恵を絞り、産業観光、都市整備のみならず、子どもたちの教育、生活環境の向上、福祉全般等、行政全般で事業を進めているところである。

答【まちづくり課長】

①空き家に関する実態調査を実施中で、結果をもとに所有者の意思確認を行い、活用への可能性を探っていきたい。空き家バンクについても、

情報発信等の手段を得ながら、移住促進や有効活用に結びつく仕組みをつくり、今後検討していく。

②現在、情報発信ツールとして広報紙、ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ライン、dボタン広報誌の6つのツールで発信している。イベント等はウイズコロナの中、計画検討している状況である。



ファミサポ会員の負担軽減のため、 報告書の簡略化は

こども育成課長
「捺印廃止し、メール等での提出も可能」



品川 静

問……………
重複する時間帯の援助依頼を受けられないか。

答【こども育成課長】
送迎の空き時間など、今後対応できるように検討したい。

問……………
援助活動報告書の捺印廃止や文書の電子化など提出方法の簡略化は。

答【こども育成課長】
既に捺印は廃止し、メール等での提出も可能である。

要望
可能になっていることは知られていない。実際、一軒一軒訪問し、手書きの報告書にサインと捺印をして、さらに報告書を事業所に届けている。改善されていることの周知を願う。

答【こども育成課長】
児童館の使用は相談により可能。オアシス篠栗のキッズルームや図書館、クリエイト篠栗などは、使用状況によって利用可能である。

森林の新たな価値を見いだし、 企業プログラム開発を

産業観光課長「町の特色を活かしたプログラム開発に努めたい」

問……………
巨木を中心とした生態系が残る篠栗町の森林の現状を把握し、新たな価値を見いだし、くべきである。

答【産業観光課長】
大和の大杉の胸高周り16・15mは、屋久島の縄文杉（16・4m）を超えている可能性もあるので、再計測は可能か。

また、新しいエビデンスの収集や分析を行い、森林の価値をアップデートすることで、新たな情報発信が可能だと思われるかどうか。

答【産業観光課長】
計測から20年経過している。再計測により新しいデータを提示できることは、情報発信する上で有意義であり、関係各署に再計測の協力を願いたい。

問……………
森林の多様な価値を活かした企業研修も増えている。森林セラピーの企業対応への考えは。

答【産業観光課長】
町内の事業者と連携し、多様化するニーズに合わせ、町の特色を活かしたプログラムの開発に努めたい。あわせて、研修目的に対応できるよう森林セラピーガイドのスキルアップ支援にも努める。

答【町長】
企業研修のイベント主催者から、篠栗町での取り組みの説明を受けることになっている。今こそ知恵を絞り、取り組みに広がりを持たせる時期である。海外旅行者へのアテンドを含め、新たな展開の入り口が見えていくと感じている。

スマホ講習でデジタル格差解消を

社会教育課長
「講習会開催を検討してまいりたい」



田辺 弘之

問……………

政府は、健康保険証を2024年の秋にマイナンバーカードへ一体化した形に切り替える」と発表した。

総務省の調査では、デジタル活用に支援を必要とする高齢者は約2000万人。デジタル化から取り残されないように、スマートフォンなどの使い方を教えるデジタル活用支援について、2025年度まで、毎年5000か所で講習会を開き、5年間で延べ1000万人の高齢者の参加を促すと言っている。

また、篠栗町では、血圧や脂質でメタボ対象者や予備軍に

なった住民の割合が福岡県平均よりも高く、糟屋郡7町でも最も高い。それらを解消するために、福岡県は、健康ポイントアプリなどで健康の推進を図っている。

これらを踏まえて、次の質問を行う。

① 民生委員・福祉協力員が高齢者などの訪問時に、スマホの利用方法などを聞かれた数は、

② 総務省によると昨年度、全国1800か所でスマホの無料講習会を行っているが、町として講習会や相談会の取り組みは、

③ 分館等でスマホ講習会をしているところはあるのか。

④ 小学校区単位などでスマホ講習会や相談会の開催が出来るのか。

⑤ 福岡県健康ポイントアプリの登録や使い方などの推進は、

答【福祉課長】

① 具体的な数の把握はしていない。

答【社会教育課長】

② クリエイト篠栗でタブレットパソコン講座を開催しているが、スマホ講習会も開催することが可能。

③ 現在、実施をしている区はない。公民分館長会で、スマホ講習会、相談会の開催、普及などについて協議、検討してまいりたい。

④ クリエイト篠栗のスマホ講習会の後の開催状況に応じて、今後の取り組みを検討してまいりたい。

答【健康課長】

⑤ 集団検診受診者や健康教室利用者にはチラシを配布、操作が難しい方に職員が個別に対応。11月末で登録者数は731人。



福岡健康ポイントアプリ QRコード

要望

さまざまな手続きはスマホとなっているので、講習会の開催は早急に望む。その際、広報やHP、回覧版などで効果的な周知をお願いしたい。



やまや建設用地に 町有地が含まれるが

財産活用課長「一部は協議済みだが、残りについては検討中である」



横山 和輝

問 平成30年度当初予算審議では、篠栗北地区産業団地事業でのやまやコミュニケーションズの売却面積は、1万5904㎡、町有地1558㎡と説明されていたが、平成30年8月30日に取り交わした協定書では、売却面積1万3588㎡と減少し、その分、町有地が増加している。平成30年5月24日に行われた現地調査資料では売却面積に変更がなかったことから約3か月の間に変更されたことになる。1億1500万円の売却金額の減少を議会で説明し了解を得たのか。

答【まちづくり課長】 平成30年8月30日に、企業立地に関する協定書を締結、平成31年2月15日に土地売買契約書の仮契約を締結し、その後、平成31年3月議会にて、面積及び売却額を説明し承認を得ている。

問 売却面積を削減する前に議会で説明したのかと聞いている。そもそも面積を削減した理由は何か。

答【町長】 契約をするときに、議会に説明をしたので、いわゆる議決案件にするための事前の報告をしたものと思っている。

面積については、当時国の用地があり、そのまま売却するといびつな形になる。もし、何らかの形で転売となった場合、土地の形が見栄えが悪いので一つ線を引いて矩形に近くところで契約をしたということである。

問 先の10月臨時会では、その削減した土地にやまやの排水処理施設と専用駐車場を設置することとなったが、なぜ削減した面積に匹敵する町有地を貸すことになったのか。契約日及び年間借地料はどうなっているのか。

答【まちづくり課長】 排水処理施設建設の相談があったことから令和4年6月10日に契約締結を行っており、年間借地料は448万5218円となっている。

問 やまや専用駐車場の答弁がないが。

答【財産活用課長】 施工前ということと実際の面積が出されていない。確定した場合に契約したいと考えている。

問 町有地を一企業が工事をするので、契約した後でないか工事ができないのではないか。手続きはどうなっているのか。

答【町長】 鹿島建設が一体として工事をするので、町有地部分の負担金を払うという流れで工事を進めていく。

夜の公園、住民の安全・安心を

都市整備課長「必要な対応を行いたい」



村瀬 敬太郎

問.....

街路灯や防犯灯の増設の問題は、これまでも幾度か一般質問にあがっている。犯罪の起こりやすい時間帯として、22時から翌5時の時間帯が53%で、夜の公園は発生率が高いとされる。公園等での犯罪抑止の方針を尋ねる。

答【町長】

安全・安心なまちづくりのためにも町内における防犯対策は大変重要であると認識しており、さまざまな取り組みを行ってきた。

粕屋警察署と協議して防犯カメラを設置するなど、防犯意識向上に努めている。

答【総務課長】

防犯パトロールカー（青パト）を配備し、毎日、警察官OBである総務課の防犯対策専門官が、小学校の下校時間を中心に巡回している。

不審者や犯罪情報が寄せられたときは、巡回を重点的に行うとともに、粕屋警察署にも依頼し、昼夜問わず重点パトロールを行っている。

今後も、街頭犯罪や詐欺などの抑止について、警察と連携しながらパトロールや啓発活動を行ってまいりたい。

問.....

警察庁の安全・安心まちづくり推進要綱では、公園の防犯には「人の目」を自然な形で確保し、「第三者に目撃されるかもしれない」と感じさせることが必要であり、具体策として、

- 光害に注意しつつ、防犯灯等により必要な照度を確保する
- 植栽・遊具等により見通しの悪い空間ができないように配慮する

等を示している。

問.....

災害の際の避難地に指定されている公園もあり、明かりがあることは、不安な中にも少しの安心感を与えるものにもなる。町内の公園の数と夜間照明の設置率は。

答【都市整備課長】

町内の公園は38か所。うち、夜間照明の設置は14か所で設置率36.8%である。

植栽や遊具は、定期的に点検等を行うとともに必要な修繕や剪定等を行い、見通しの悪い空間が生じないよう配慮を行っている。

今後も同様の対応を継続し、夜間照明についても状況を鑑み、必要とする箇所には設置対応を行いたい。

問.....

先日、公園内で放火される事案が発生した。周囲が明るければ抑止できた可能性がある。町民の安全安心のため、早急な対応を願う。

答【都市整備課長】

必要な対応を考えたい。

持続可能な部活動改革を

教育長「地域移行を慎重に進めたい」



栗須 信治

問

スポーツ庁・文化庁は2023年度から3年間、公立中学校の休日の部活動を民間クラブ等へ段階的に「地域移行」させる方針を示している。

部活動は教育的意義から学校教育の一環として行われ、心身を鍛える場となり、仲間と深い友情を築く貴重な場となってきた。今も生活の中心が部活動という生徒は少なくない。一方で、教員の働き方改革の妨げになっているとの指摘もある。加えて、少子化が進む中で、団体競技は学校単位の活動では成り立たなくなるとの推計もある。これらと向き合うための地域

移行であるが、受け皿の整備が必須であり、枠組みがしっかりしなければ、定着に時間がかかり、子どもたちが「空白と混沌の時代」を過ごすことになる。受け皿となる地域クラブの整備や関係団体の調整、また、指導者や施設の確保など課題は多い。

そこで、部活動の現状と課題、また、地域移行をどのように進めていく方針であるか尋ねる。

答【教育長】

部活動の現状は、

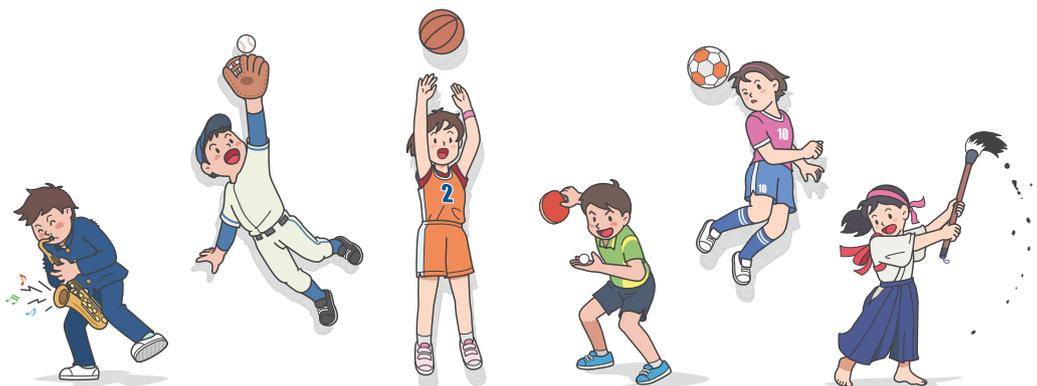
- 篠栗中学校
- 運動部13
- 文化部4
- 加入率73%
- 篠栗北中学校
- 運動部13
- 文化部2
- 加入率68%

活動日数は、週5日（土日は1日）。時間は、平日1〜3時間、休日2〜4時間。しかし、大会

前は長時間となり、指導を担う教員の負担も大きくなる。部員数も団体競技が難しい部や極端に少ない部もある。

これらの課題と向き合ったため、休日の教師の負担軽減や生徒の活動機会の確保に取り組んでいるが、受け皿の整備など課題は多い。

今回、文科省の提言を踏まえ、関係団体と検討会議を行い、地域移行を推進するため「篠栗町地域部活動準備委員会」を設置する必要があり、本議会に設置条例の議案を提出している。審議いただき、その組織となる社会教育委員、スポーツ推進委員、スポーツ協会、文化協会、児童生徒の保護者、教職員など各団体と協議を重ね、関係者のニーズや課題把握、情報発信を行い、中学生の健全育成と地域の活性化をめざし、地域への移行を慎重に進めたい。



現在までの経過説明を求める

町長「この4年間の事業を答弁する」



荒牧 泰範

問……………

篠栗駅自由通路は総額11億7000万円であるが、私が提言していたイベント性はあまりないようだ。通路としての機能を知るために旧跨線橋と新通路の利用者数と年間必要経費を問う。

森林セラピーの当初は町民の健康促進と来町者の経済効果も目論まれたがそうならず、企業の健康管理目的募集に切り替えられたが現在の状況と総経費及び年間支出を問う。

職員業務評価は職員相互間で役職上下を問わない評価に取り入れる制度に変えると発言されていたがどのように機能してい

るのかを問う。

北地区産業団地は総額56億円を投じ30億円での売却となったが、赤字分をどのように回収するかという議論は、住民サービスを目的とする地方自治体にはそぐわず、差額26億円分の喜びをいかに町民のみなさんに感じていただくかを示すべきと思う。もちろん税收や使用料アップにイベント収入などで補填もなされるであろうが、町の将来像でどのようなキーポイントとなるかを問う。

答【町長】

自由通路は国の交付金を使用し完成させているので会計検査後にイベント性を持たせる。利用者数は把握していないがエシベーター整備等により利用者は増加している。

森林セラピーは企業向けに切り替えたのではなく、従来にそれを加えて進めている。整備費は6800万円と九大の森に5400万円を要しているが、産炭地域活性化事業交付金を活用している。

業務評価は町の人事評価規定により行っている、役職上下を問わない評価の導入は人間関係などが影響する恐れがあり行っていない。

産業団地については、町の企業数はもともと少なく法人関連税は人口8000人の久山町にも劣る現状をなんとか打破し自

主財源を確保すべき考えと、国道201号沿線での事業開発で町内外からの交流人口を増加させ、篠栗町の新しいシンボルゾーンを作り、福岡都市圏東部の賑わいを感じる素晴らしい町になるとの思いで開始した。持続可能な発展の基盤整備事業と捉え進める。



篠栗駅東側自由通路「ささぶりっし」

輝く まちの宝

3年ぶりに開催 第19回ささリンピック



絶好の秋晴れの中、カブトの森公園で幼稚園児からシニアの方まで500人以上が、グラウンドゴルフ、子どもサスケ、キッズサッカーなどの競技に参加し、さわやかな汗を流していました。

旬花衆灯

レモンの新品种「璃の香」の収穫が始まった。

特産のレンコンや玉ねぎが有名な佐賀の白石町では、国の研究機関、農研機構が宮崎特産の「日向夏」などを交配させて10年程前に「璃の香」を開発した。昨年の11月に、白石町役場を糟屋・宗像地区の有志議員で視察を行い驚いたことがある。それは、町が山間部の遊休農地を借り受け、企業が活用して営農することである。この取り組みは行政では初めてではないだろうか。

現地で食してみると甘く、華やかな香りが鼻を通り抜ける。企業が栽培することで町費をほとんど費やすことがない。知恵と工夫で町の特産品を作り上げた。

篠栗町にも何か特産品と呼べるものがないものか…。

横山 和輝

3月議会は

3/1 水 開会

3/3 金 一般質問

の予定です

発行責任者 議長 阿部 寛治 議会広報広聴委員会 委員長 田辺 弘之 / 副委員長 品川 静
委員 村瀬 敬太郎・栗須 信治・横山 和輝・藤木 高裕

令和5年2月1日発行

発行/篠栗町議会 福岡県糟屋郡篠栗町中央一丁目1番1号 TEL092-947-1390 FAX092-947-1442 印刷/株式会社